

平成 16 年 3 月期

第 3 四半期業績の概況 (連結)

平成 16 年 2 月 9 日

上場会社名 三菱レイヨン株式会社

(コード番号: 3404 東大)

(URL <http://www.mrc.co.jp/>)

代表者 役職名 取締役社長

氏名 皇 芳之

問合せ先責任者 役職名 経理部長

氏名 及川 清

TEL (03)5495 - 3130

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

売上高の会計処理の方法の最近連結会計年度における認識の方法との相違の有無 : 無

2. 平成 16 年 3 月期第 3 四半期業績の概況 (平成 15 年 4 月 1 日 ~ 平成 15 年 12 月 31 日)

(1) 売上高 (注) 金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。
9ヶ月累計 (平成 15 年 4 月 1 日 ~ 平成 15 年 12 月 31 日)

	売上高	
	百万円	%
16 年 3 月期 9 ヶ月累計	224,831	-
15 年 3 月期 9 ヶ月累計	-	-
(参考) 15 年 3 月期	300,641	

(注) 四半期業績の開示は、当期より行っていますので、前年 9 ヶ月累計実績及び対前年 9 ヶ月累計増減率は記載していません。

[売上高に関する補足説明]

当第 3 四半期は、アジア経済は堅調を持続し、米国景気も回復基調を強めつつ推移するなかで、日本経済は輸出の増加に牽引され緩やかながら回復傾向を辿りましたが、円高の進行に加え、原料価格も高止まるなど厳しい状況が続きました。

このような環境のもと、化成品・樹脂事業は、MMA モノマーが旺盛な需要により逼迫した状況が続き、上昇した原料価格の製品価格への転嫁に努めました。PMMA (アクリル) 成形材料は日本及びアジア市場向けが堅調に推移し、アクリルシートは導光板用途向けや携帯電話用途の表面硬化アクリル板が引き続き好調でした。

繊維事業は、アクリル短繊維は中国などアジア市場の旺盛な需要により販売は堅調に推移しました。その他の繊維は、トリアセテート長繊維「ソアロン」が、国内や、欧米など輸出向けに堅調でした。

機能製品・エンジニアリング事業外では、炭素繊維・複合材料事業は製品価格の値戻しに注力し、スポーツ分野において、アジア市場をはじめ堅調な出荷が続きました。情報材料事業は概ね計画通りに推移し、アクアライフ事業は需要の低迷や価格競争激化により低調でしたが、高付加価値製品の販売に注力しました。

以上の結果、売上高はほぼ計画通り、2,248億31百万円となりました。

(ご参考: 事業の種類別セグメント売上高)

9ヶ月累計 (平成 15 年 4 月 1 日 ~ 平成 15 年 12 月 31 日)

	化成品・樹脂事業	繊維事業	機能製品・エンジニアリング事業外	合計
	百万円	百万円	百万円	百万円
16 年 3 月期 9 ヶ月累計	92,807	67,666	64,357	224,831
15 年 3 月期 9 ヶ月累計	-	-	-	-
(参考) 15 年 3 月期	116,214	94,364	90,062	300,641

(注) 四半期業績の開示は、当期より行っていますので、前年 9 ヶ月累計の実績は記載していません。

第 3 四半期 (平成 15 年 10 月 1 日 ~ 平成 15 年 12 月 31 日)

	化成品・樹脂事業	繊維事業	機能製品・エンジニアリング事業外	合計
	百万円	百万円	百万円	百万円
16 年 3 月期第 3 四半期	29,138	21,657	21,559	72,355
15 年 3 月期第 3 四半期	-	-	-	-

(注) 四半期業績の開示は、当期より行っていますので、前年同四半期の実績は記載していません。

(2) 当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

該当する事象は特にありません。

3. 平成 16 年 3 月期の連結業績予想 (平成 15 年 4 月 1 日 ~ 平成 16 年 3 月 31 日)

	予想売上高	予想営業利益	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり 予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
通 期	313,000	26,000	21,500	12,000	19.62

[業績予想に関する定性的情報等]

第3四半期の売上高及び営業利益は概ね予想通りに推移しています。なお、通期の業績についても平成15年11月11日の中間連結決算短信で発表した業績予想を見込んでおります。

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。